

あおぞらだより

第154号(発行/平成28年3月)

2 病院合同カラオケ大会

臨床

江戸川病院院長 新村ヨシオ



作業療法作品/2 病棟は、最終学年で医学部ならば5年生の後半から6として各科に配属される。他の医療系の学校でいる。実習は勉強してきたことを活用し、資格取り、勉強に身が入り、期待に胸を膨らませる時で安も交錯し、もし失敗したらどうしようと緊張がりもする。それぞれの科によって疾患の特性も違って対応も考慮しなくてはならない。我々の時代今でも各科で担当した患者のことは思い出す。経験は貴重なものと感謝している。病気をさることで頭からつま先まで観察し、疾病に特有の変化ら始まり、打診や聴診といった理学的所見をとら

臨床とは病床に臨むことである。すなわち、医療従事者が病床に伏している患者と接することをいう。卵たちが学習し試験を受けて、知識が確実にってから、実際に役立たせる機会を与えられる場である。初めて患者と接するの年生にかけて臨床実習も同様な態勢となって得に近づける時でもある。うれしさと不高まって眠れなかった例えば、性別や年代によは14科を経験したが、患者との触れ合いのとながら、患者と会っはないかという視診かせてもらった。最初の

うちは汗だくとなり、手が震えたこともあり、「そんなに緊張しなくてもいいよ」と和ませてくれた人もいて胸をなでおろしたこともあった。医師になっても数年は緊張していたことが記憶に甦ってくる。

臨床は病気になった人を診断し治療することである。診断するには問診があり、検査して統合的に疾患を探り当て薬を処方する。一般科では医療機械の発達が顕著で画像や数値で検索できるようになり、診断には正確性が担保されてきた。医師も機械に頼るようになり、すぐに採血と画像や直視的検査が多くなって、患者と言葉や触診による接触はかなり減少してきた。理学的所見も重要な科もあるが専門化してきたために省略できる科もあるので医師と患者の接触は寡少になってくる。加えて電子カルテの導入が促進され、入力のための手技で医師が患者の顔を見ないまま検査室に案内されたり、処方箋を渡されたりしている。勤務医や開業医も臨床家であるが、患者との会話も少なくなってきたようだ。確かに検査結果も多くの情報があり、医師の患者への説明責任を考えれば一方的に話さないと終わらない。そうでもしないと患者の待ち時間はさらに長引くことになる。そのために患者から医師に質問もできぬまま、納得ができぬまま帰宅することもあるようだ。

臨床医になるには国家試験に合格してから研修を受け、実力を身につけていく。研修機関は昔は医局講座制があり、大学が中心となって教育してきた。当時は医療はサービス業と思っている医師は少なく、接遇技術の伝授はなかった。教育や研究そして臨床という3本柱があって研究発表が主流ということもあり、臨床力は二の次のところもあった。来る者は拒まなかったが、医師は格別扱いされていた。世間も「お医者さん」と敬意を表してくれていたこともあり聖職者として見てくれていた。双方の距離感は埋まらないままになって、それなりの均衡は保たれていたようだ。しかし、時代の波に押され医局解体や研修制度の大幅な変更により、民間で初期研修をうけていくなかで接遇にも力を入れるようになり全国的にも見直され、医師の意識にも変化が起きてきた。病院生活の中にも快適さが求められるようになり、格付け社会にもなって医療従事者にも危機感も生まれ、サービス精神が植えつけられるに至った。新規の開業医は殆どの方は評判が良い。

臨床は終わりが無い。医師にとっては真剣勝負である。先輩からも「患者さんは教科書だ。教科書以上に教えられることが多い。学ばせてもらいなさい」と指導されてきた。学問を積めば診断や治療には役立つが、臨床で人間づきあ

いするのが難しい。指紋やDNAと同じように、ひとりとして同じ人は居ないので、とても苦勞させられる。第一印象や馬が合う、合わないなど感性の問題もあり、相手が努力してくれても自身に抵抗感が生じてしまうこともある。感性の受信装置は個人差があり、送信の周波数も別々なので一致することは少ないと考えるようにはしている。医師は患者を通して疾患の苦しみを知り、会話を通して共感できるようになるが、言語化できない部分は共有できない。いくら生殺与奪の権力をもっているからと言っても医師に自分の全てを晒け出すのは誰でも出来ない。そこまで求めはしないが、より深く疎通するには医師も同じ土俵に立たなければならない。医師は秘密を打ち明けるに足る人物であるか患者も人間観察しており、信頼感を与えるのは困難である。相手の判断基準も千差万別だし、理想に近づけられない医者の葛藤もある。客観的・中立・公平な判断で正確性を求められるので重責である。短時間の診察の中ではとても困難な事柄ではあるが、今後も教えられたことを患者に還元して臨床医として動けなくなるまで働くつもりである。

カラオケ大会

木野崎病院との
合同カラオケ大会の様子です。



この写真にはあまり写っていませんが、当日は大勢の参加者で賑わっていました。

